

授業改善推進プラン 小学1年生

	各教科の課題	課題に対する具体的な授業改善策	評価
国語	①文字や文章を正しく読んだり、書いたりする。 ②相手に伝わるように話したり、聞きたいことを落とさないように聞く。	①ひらがなしりとりなどの言葉遊びを繰り返し行い、文字と読みの一致を図る。 ①字形を評価するテストを定期的に行ったり、授業の冒頭で短文を書かせたりする。 ②基本の話型を教室に掲示し、繰り返し指導する。 ②集会などで聞いた話の内容を振り返らせる活動を毎回行う。	【評価】 ①文字の読み書きは正しくできる。文章は「てにをは」の誤り等に課題が残った。 ②おおむね達成した。主述の関係がねじれてしまうことに課題がある。
生活	①自然に対して関心をもつ。 ②学校や身の周りの地域について関心をもつ。	①動植物の世話をルーチン化させると同時に、毎日の様子の変化について尋ね言語化させる。 ②教師自らが地域の活動に積極的にかかわり、学校や地域の話題を定期的に投げかけていく。	【評価】 ①自然に対する関心を強くもつようになった。 ②コロナ禍によって制限がかかってしまった部分もあるが、関心が高まった。
算数	①文章から題意を読み取り、立式する。 ②基礎・基本的な計算力を向上させる。	①文章の場面を絵や図で表し、具体的なイメージをもてるようにする。 ①文章で何が問われているのかを全体で確認しながら、問われていることにひとつずつ答えていけるようにする。 ②計算練習に毎日取り組ませる。	【評価】 ①文章から場面をイメージしたり、問われていることを読み取ったりすることはできるが、絵や図に表さずに間違えてしまうことがあることが課題である。 ②計算力は高まっているが、児童による差が大きいことが課題である。
音楽	①楽しく音楽に関わり、音楽表現を楽しむために必要な基礎的な技能を身に付ける。	①楽しくできる音階練習や、馴染みのある歌を繰り返し練習させる。 ①リズム遊びで、交流する場面を多く設定する。言葉による指導とDVD視聴を併用して、内容を分かりやすくする。	【評価】 ①様々な歌の練習やリズム遊びの内容を工夫することで、児童が楽しみながら学習に臨むことができた。
図工	①自己の表現したいものを様々な方法で表現する。	①多様な表現を引き出すための用具を充実させ、安全かつ円滑に作業が行える場を設定する。 ①具体的な表現方法をたくさん例示したり、それらの具体物を間近で見たり触れたりできるようにする。	【評価】 ①用具や場、具体物を充実させることで、表現の幅が広がった。
体育	①技能のポイントを自分なりに見つけようとする。 ②楽しく運動に関わり、活動に意欲をもつ。	①良かった点をすぐに伝え、称賛する。また、友達の手本を見ながら、技能のポイントを共有する場面を設ける。 ②ゲーム的な要素を取り入れた運動遊びを多く設定する。	【評価】 ①言語よりも、実際にやって見せることの方が効果的であった。友達の動きから、ポイントを見付けようとしている姿を多く目にする事ができた。 ②運動遊びを積極的に楽しみ、意欲的に活動することができた。

授業改善推進プラン 小学2年生

	各教科の課題	課題に対する具体的な授業改善策	評価
国語	①場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える。	①音読練習はさまざまな手法で行い、飽きさせないように音読を繰り返すことで、内容の把握へとつなげる。 ②音読劇を行うことで、文章から情景を思い浮かぶことができるようにする。	【評価】 ①一斉音読のみではなく、さまざまな手法で音読をしたことで、児童が音読することを楽しみながら取り組むことができていた。 ②音読劇を行うことで、登場人物の把握はできたが、情景を正確に捉えるためには、さらに感情面にも言及していく必要があった。
生活	①いろいろな生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物を自分たちと同じように生命あるものとして大切に扱おうとしている。	①生活環境から、生き物を自分たちと同じように生命あるものとして大切に扱おうとする気持ちを育むことが難しいため、ICT教材を活用することで、事前にしっかりと生命尊重の意識をもたせる。	【評価】 ①道徳の授業とも関連させ、映像教材で生命の尊重について学ぶことで、より大切に扱おうという姿勢が見られた。
算数	①正確に基礎・基本的な計算を行う。 ②正確に時計の時刻、または経過した時間を読み取る。	①筆算の仕方を細かく確認しながら指導し、ノートや机間巡視を通して個別に支援することで、正確な計算方法を身に付けさせる。 ②具体物を用意し、視覚的にも理解できるようにする。	【評価】 ①机間巡視の個別支援で、一人一人に正確な計算方法を身に付けることができた。さらに計算の早さを高めるためにも、練習量を増やせるようにした。 ②時計の模型を使用したことで、実際に手を動かしながら時間と時刻の感覚をつかめていた。
音楽	①伴奏や友達の歌、演奏など周りを聞きながら合わせて歌ったり演奏したりする。 ②正しい息の使い方で鍵盤ハーモニカを演奏する。	①いきなり歌ったり演奏したりせず、聞く時間を設けて曲を耳で理解してから取り組ませる。ペア、トリオなどでの練習や発表の機会を設け、周りと合わせて歌ったり演奏したりする経験を増やす。 ②短く切って演奏したり逆に息を長く伸ばしながら演奏したりする短いフレーズの練習にドリル的に取り組ませる。	【評価】 ①短いフレーズに切って伴奏を聞きながら歌ったり、課題による友達の歌声の違いを聞かせたりすることで、自分の声以外の音に耳を向けられるようになった。 ②楽しく合奏する中で息を調整したりタンギングをしたりすることができるようになった。
図工	①造形遊びをする活動を通して、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を思い付く。	①有名な作品や、他の児童の作品など、さまざまな例を掲示することで、想像を広げて造形遊びに取り組めるようにする。また、身近に自然物は多いが、人工物は少ないため、ICTを活用し、さまざまな人工物を鑑賞する時間を設ける。	【評価】 ①つくり方を一方的に提示するのではなく、完成している作品や、似ている有名な作品などをタブレットを活用して常に確認できる環境作りをしたことで、児童自らがよく思い付きながら活動できた。
体育	①音楽に合わせて豊かに表現運動をすることができるようにする。	①ICTを活用し、各自の踊りを自身で確認することで、よりよい踊り方を習得させる。また、グループ活動を増やし、お互いに見合ったり、話し合ったりすることで、豊かな表現へとつなげる。	【評価】 タブレットを活用して、自分の動き、グループの動きを確認させることで、お互いに指摘し合い、よりよい動きになった。タブレットの活用方法の説明に時間がかかるので、より効率的に説明したい。

授業改善推進プラン 小学3年生

	各教科の課題	課題に対する具体的な授業改善策	評価
国語	①目的を意識して、中心となる語や文を見付ける。 ②相手や目的を意識して、伝えたいことを明確にして書く。	①音読や視写を通して、文章への理解を深める。音読も丸読みや一斉音読、交互読みなど、様々な方法を用いる。 ②毎週末に日記の宿題を出すことで、書くことへの抵抗感を徐々に減らせるようにする。また、授業内で振り返りなどを書かせたときには、上手に書けている児童を取り上げ全体で共有する。	【評価】 ①文章の大まかな内容を読み取ることができるようになった。今後は文章の細かな部分まで落とすことなく読む力を付けていく必要がある。 ②宿題や毎授業での振り返りなど、書く機会を増やすことで書くことへの抵抗感はやや減った。今後は相手に伝わるように正しく分かりやすい文章を書けるようになることが課題である。
社会	①新出用語や地図記号を覚える。 ②本土の一般的な地理的環境についての理解を深める。	①用語を口に出して唱えさせたり、フラッシュカードでゲームをしたりなどを行い、繰り返ししていく中で定着できるようにする。 ②教科書や写真資料を用意しそれぞれの地域の特徴について気付かせるとともに、身近な地域の様子と比較させる。	【評価】 ①新出用語や地図記号に関しては、ある程度定着させることができた。 ②印刷した資料をノートに貼るなどし、手で資料を見られるようにすることで、地域の特徴についての理解を深めることができた。
算数	①基礎的な四則計算をする力、特に乗法九九を身に付ける。 ②問題文を適切に読み取り、図に表して説明したり、立式したりする。	①授業の初めにまず計算を行う。前回の自己記録を超えることができるよう声をかける。 ②児童同士で考えを共有する時間を設け、多様な考え方に気付かせるとともに、そこから適切な方法を考えさせる。	【評価】 ①50秒計算を繰り返し行うことで、九九の定着度が上がった。 ②児童による考えを発表する機会を増やすことで、説明する力を付けることができた。
理科	①実験や観察の楽しさに夢中になって、知識・理解・技能面がおろそかになる。 ②理科的な新出用語に慣れる。	①実験や観察のねらいを言葉だけでなく絵や図も活用しながら板書したりワークシートに書いたりして明確にしてから取り組ませる。 ②授業の中で何度も使ったり、言葉カードにして常に掲示したりして、少しずつ身につくようにしていく。	【評価】 ①板書をノートに書く時間を十分に取ることで知識を整理させることができた。 ②新しい言葉を書き繰り返すことで慣れ、ある程度使いこなせるようになった。
音楽	①基礎的・基本的な演奏技能を習得する。 ②鑑賞の能力を高める。	①絵や図で示された演奏のポイントを用いて指導する。 ②様々な音色を用いて鑑賞活動を行い、新しい視点をもてるように個に応じた指導をする。	【評価】 ①視覚化によって、音楽の構造を考える力が上がった。 ②様々な音色を用いて、音楽文化への理解を深められた。
図工	①表したいことに合わせて表し方を工夫する。	①表現したい気持ちが強すぎるため、手や体全体を十分に働かせて、材料や用具の特性を理解しながら児童が自分の表したいことに合わせて技能を働かせることができるように図示や解説を随時取り入れた指導を行う。	【評価】 ①ICTを活用してイメージを具現化するための手立てを取り入れることで、構想の能力が高まり、技能も段階的に高まった。
体育	①種目に応じた基本的な技能を身につける。 ②安全に気を付けながら友達と協力して活動する。	①タブレットで動画を撮影するなど、自分の動きを客観的に捉えられるようにする。よい動きは全体で共有する。 ②児童同士で動きを見合う時間を取り入れる。よい声掛けをしている児童を取り上げ、全体で共有する。	【評価】 ①動画を見ることで、自分の動きのよさや課題に気付けた。 ②お互いの動きを見て声を掛け合ったりすることで、協力して活動することができた。

授業改善推進プラン 小学4年生

	各教科の課題	課題に対する具体的な授業改善策	評価
国語	①前学年までの既習漢字を定着させる。	①スモールステップによる反復学習を繰り返し、既習漢字の定着を徹底する。	【評価】 ①スモールステップによる反復学習を繰り返した結果、新出漢字についてはほぼ100%習得させることができたが、既習漢字の反復学習の継続が必要である。
社会	①社会科学の専門用語を理解させ、定着させる。	①専門用語の意味を単なる知識として覚えるだけでなく、社会科見学などを通して実際に自分の目で見、分かったことなどを自分なりに工夫してまとめ、自分の言葉で表現することで、学習内容の理解を深める。	【評価】 ①社会見学などの内容を学習発表会に向けてまとめたり、様々な学校とのオンライン交流を通して、自分の考えや意見を自分の言葉で発表したりすることで、学習内容の理解をより深めることができた。
算数	①前学年までの既習内容を定着させる。	①スモールステップによる反復学習を繰り返し、既習内容の定着を徹底する。	【評価】 ①スモールステップによる反復学習を繰り返した結果、4年で学習する内容はほぼ100%定着させることはできた。しかし、既習学習の定着までには至らなかった。
理科	①児童数が少なく、予想や考察の場面で思考が広がりにくい。 ②得られる実験データが少ない。	①一つの考えで終わりにせず、さらに考えが広がったり深まったりするような声かけを工夫して話し合いを膨らませる。児童の考えが広がるような資料(写真、データ)をあらかじめ用意しておく、児童数の少なさを補えるようにする。 ②クラス内のデータだけでなく、教科書等のデータを活用したり、教師が実施したデータを複数用意しておいたりすることでデータ数を増やし、一般化して考えられるようにする。	【評価】 ①全員が自分なりの意見を言うように促すことで一人一人がじっくり考えられるようになった。 ②自分たちのデータと教科書のデータを比較しながら現象を捉えられるようになった。
音楽	①基礎的・基本的な演奏技能を習得する。 ②音楽の構造を理解して鑑賞する力を身に付ける。	①演奏のポイントを絵や図で示して指導する。 ②音楽の構造を分割して図で示し、必要に応じて組み替えの活動を行う。	【評価】 ①演奏情報の視覚化によって、基礎的な技能が効率よく身に付いた。 ②並べ替えの活動によって、音楽構造の理解が深まった。
図工	①感じ取ったことや思ったこと、考えたことなどを、話したり聞いたり話し合ったりする力が不足している。	①児童自身が気づきを自覚できるように、形や色から受けたイメージを根拠や理由を基に話したり、話し合ったりできるように指導をする。造形的なことばの意味や役割について図示で適宜解説をする。	【評価】 ①根拠をもって形や色から受けるイメージを言語化することができ、鑑賞の能力が高まった。
体育	①忘れ物が非常に多いなど、関心・意欲・態度に課題がある。	①苦手な種目をやりたくないために忘れ物をするのか、などを観察・分析し、少しでも意欲をもてるよう、ユニバーサルデザインの観点からできることに取り組めるようにする。	【評価】 ①ワークシート等を活用することで、少しずつはあるが、苦手な種目であっても自己の目標を達成するために、前向きに取り組むようになってきた。

授業改善推進プラン 小学5年生

	各教科の課題	課題に対する具体的な授業改善策	評価
国語	①文章全体の構成を考え、文法の正しい文章を書く。 ②漢字を正しく、字形を整えて書く。	①文章を要約する課題を定期的に出して、繰り返しの添削をする。 ②小テストの機会を多く設け、即時採点することで、復習ができるようにする。	【評価】 ①文章に何が書いてあるかの意味を考えられるようになった。 ②小テストを小さな目標として取り組むことができた。
社会	①地図から正しい情報を読み取る。 ②資料から必要な情報を調べたり、分析したりしてまとめる。	①Web上の地図を動かし、目的地まで到達する活動を取り入れ、正しい情報を読み取る力を付けさせる。 ①地図の正しい読み方を、小テストで繰り返し指導する。 ②グラフを正しく読み取ることができるよう繰り返し指導する。 ②資料の表していることの意味を確認して、まとめさせたい情報を提示し、丁寧に学習を進める。	【評価】 ①地図記号を復習したことで地図が理解できてきた。 ②グラフや表が何を説明していることをよく考えることで理解することができてきた。
算数	①四則に関して成り立つ性質について理解し、正しく計算をする。 ②数学的な表現を用いて、自分の考えを簡潔・明瞭・的確に表す。	①小問題を多く解かせ、性質が確実に身に付くようにする。 ①計算の手順が分かるカードを提示した授業を行う。 ②各個人の考えを全員で読み合い、分かりやすい表現や図表の使い方を全員で共有できるようにする。	【評価】 ①四則計算を繰り返し復習したことで、どのような場面でも計算が使えるようになった。 ②説明の言い方を工夫させることで他者にも理解させることができてきた。
理科	①目に見えないもの、その場がないものなど抽象的な概念を理解する。 ②実験と概念の理解が結び付く。	①視覚的資料も使いながらできるだけ身近な自然事象や児童の生活の中にあるものに置き換えて説明するなど、まず児童の分かる言葉や概念での理解を狙い、その上で抽象的なものへの理解を広げられるよう、指導の順番を工夫する。 ②実験結果がどうなると何がわかるのか、という仮説を実験前に考えさせることで、何のために実験をするのか、この実験で得られるものは何なのかを理解させてから実験をするようにする。	【評価】 ①映像資料を活用し、なるべく具体化することで理解の助けとすることができた。 ②実験を実生活と結び付けながら理解させることができた。
音楽	①基礎的・基本的な演奏技能を習得する。 ②曲想に応じた表現力を身に付ける。	①言葉の発音と発声について、個に応じた指導を行う。 ②音楽の特徴を図や表で示し、どのような表現で演奏するかを考える活動を行う。	【評価】 ①個に応じた指導によって、基礎的な技能が効率よく身に付いた。 ②視覚化によって、音楽構造への理解が深まった。
図工	①課題を深く理解し、考えや思いの方向性を検討する。	①「表現したい」という欲求がとても強い為、どのように活動するかを深く考えさせるために、ワークシートでイメージや工程を整理したり、図示したりする。児童が自分の感覚や気持ちを大切にしながら、発想を刺激し合いながらグループで造形活動を考える場を設定する。	【評価】 ①発想したことを基に構想する時間を多く設定することで、見直しをもって活動に取り組むようになり、造形感覚をさらに高めることができた。
家庭	①基礎的・基本的な知識や技能を習得する。 ②調理や裁縫以外に関する題材への興味関心を高める。	①実習やICT機器を活用し、実際にイメージをもって、内容の理解を深められるような授業を展開する。 ②児童が自ら考えたり、実践して取り組めるような教材や実物等の教具を用いた授業を展開し、意欲的を高める。	【評価】 ①できる限り実習を取り入れたり、スライドや視覚教材を用いたりすることで知識の定着を促すことができた。 ②題材のまとめとして動画を視聴し、理解を深めることができた。
体育	①投げる技能を習得する。 ②仲間と協力し、課題を解決する。	①ボール運動以外に手と足の協応運動、体の捻転運動を授業の導入部分に取り入れ、継続的に取り組む。 ②学習カードやICT機器を活用し、視覚的に理解しやすくさせるとともに、ペアやグループで課題について話し合い、発表する機会を設ける。	【評価】 ①継続して課題の運動に取り組むことで、投動作の体重移動や体の回転ができるようになった。 ②他者の動きについて観察し、自己の考えを伝えることができるようになった。
外国語	①内容を整理し、考えや気持ちを話す。 ②語順を意識して、基本的な表現を書き写す。	①考えや気持ちを伝える語句に慣れ親しませる時間を設定する。 ②見本から書き写すことのできるワークシートを授業で取り入れる。	【評価】 ①カードを用いて語句に慣れることができた。 ②ワークシートの活用で表現をわかりやすく知ることができた。

授業改善推進プラン 小学6年生

	各教科の課題	課題に対する具体的な授業改善策	評価
国語	①自分の考え・思いを表現する。 ②漢字を正しく、字形を整えて書く。 ③理解が確実でない語句の意味を確認して、語彙を増やす。	①他の教科や課題でも、自分の考えを書いたり伝えたりする機会を増やす。また、簡素な内容から始めて、段階的に能力を高めていく。 ②小テストに対応したプリントを作成して、毎日宿題に出す。 ③タブレット端末内アプリ(ミライシード)を活用して、昨年度までに理解が確実でない語句を把握・改善を図る。	【評価】 ①資料をもとに、自身の考えを書き出す課題を定期的に用意した。文字数を指定することで、まずは書いてみる姿勢を意識できるようになってきた。 ②反復練習をこなしたことで、少しずつあるが点数に表れ、力の高まりを感じることができた。 ③ミライシード及び、教科書巻末にある「こぼの宝箱」を掲示したことで、文章表現の語彙が正しくなってきた。
社会	①資料を活用し情報を適切に調べ、まとめる。	①単元ごとに資料集や、図書室の本、インターネット等を使い、その中から取り上げたい史実等を調べ、自分の言葉でまとめたり新聞やリーフレットを作成する活動を充実させる。	【評価】 ①課題に適した資料を収集することができるようになった。収集方法・情報媒体が限定的になってしまった点は課題である。
算数	①問題場面を正しく読み取り、立式する。 ②四則計算・四則と答えの大きさの関係など、前学年までの既習事項を正しく扱う。	①簡単な数字・計算しやすい状況に置き換えて求めてみる方法を身に付ける。 また、数学的な表現を用いて、自分の考えを説明できるように、キーワード・解答のポイントを掲示する。 ②タブレット端末内アプリ(ミライシード)を活用して、昨年度までの苦手分野を把握・改善を図る。 タブレットは、ベーシックタイム及び授業の合間(空き時間)等に活用する。	【評価】 ①自分の考えを明確にして、友達の意見を聞くことで、問題場面を大まかにとらえる姿勢は身に付いてきた。 ②間違いを確認して解法を見直す姿勢が身につけている児童においては、非常に効果があった。そうでない児童でも、苦手分野を把握することが出来たので、長期休業日時の課題として個別で用意することは出来た。
理科	①思うような実験結果が得られないことが多くなり、その結果に引きずられて間違った理解につながってしまうことがある。 ②新出事項が多く、整理して理解する。	①思うような結果が得られなかったとき、児童と一緒に原因を探ることで、正しい理解へと導けるようにする。可能な限り再実験または演示をし、正しい情報を理解できるようにする。 ②単元の終わりにまとめの時間を作り、自分で教科書を整理してまとめを作らせることで、頭の中を整理したり、分からないことを確認して質問したりできるようにする。	【評価】 ①いろいろな実験を通して「誤差」という概念を受け入れられるようになった。 ②自分でまとめを作る時間にじっくりと教科書やノートに向き合い、知識を定着させることができていた。
音楽	①基礎的・基本的な演奏技能を習得する。 ②まとまりのある表現をする力を身に付ける。	①自己評価に基づいて課題を設定し、個に応じた学習でつまづきを解消する。 ②曲がもつ固有性や共通性を図やワークシートを用いて考え、多彩な音楽表現を試行錯誤する。	【評価】 ①自己評価によって、基礎的な技能を振り返りながら身に付けさせることができた。 ②多様な楽曲を用いたことで、音楽文化への理解が深まった。
図工	①大人から与えられた知識や、社会の習慣などを受動的に理解するのではなく、自分の感覚や行為とともに、イメージをもつ。	①母島の自然だけでなく、古今東西の作品などから造形的な特徴や抽象的なイメージをもつことで、自分の感覚や行為を通して形や色などの造形感覚を高め、自ら造形的な知識や感覚を高めていけるように、中学校美術科を意識して課題を設定する。	【評価】 ①作品鑑賞を通して、造形的な見方や感じ方を広げ、中学校美術科の内容を意識して活動することができ、造形感覚がさらに高まった。
家庭	①基礎的・基本的な知識や技能を習得する。 ②固定観念を払拭し、視野を広げる。	①既習事項を他の題材と関連させながら確認する。実習や演示、実物等の教具や教材カード等を用いて、生徒が自ら考えたり、グループワークや発表を通して、知識や技能を身に付けられるような授業を展開する。 ②ICT機器を活用し、写真や動画など視覚的な教材を用いて理解を深め、母島以外での生活様式に触れる機会を増やし、視野を広げる。	【評価】 ①可能な限りの実習や教材カード等を用いたグループワークや発表を通して知識の定着を促すことができた。 ②題材のまとめとして動画を用いたり、スライドを使用したりして母島以外での生活様式に触れ、考えを深めることができた。
体育	①投げる技能を習得する。 ②仲間と協力し、課題を解決する。	①ボール運動以外に手と足の協応運動、体の捻転運動を授業の導入部分に取り入れ、継続的に取り組む。 ②学習カードやICT機器を活用し、視覚的に理解しやすくさせるとともに、ペアやグループで課題について話し合い、発表する機会を設ける。	【評価】 ①継続して課題の運動に取り組むことで、投動作の体重移動や体の回転ができるようになった。 ②他者の動きについて観察し、自己の考えを伝えることができるようになった。
外国語	①外国語を使いコミュニケーションを積極的にとろうとする姿勢を身に付ける。 ②学習した表現を積極的に用いて、書いたり話したりする。	①児童間、児童教師間でのアクティビティを積極的に行う。 また、安心して外国語を使えるように、日本語での説明と発音練習を重ねてから、アクティビティを行う。 ②既習表現を掲示して、児童がいつでも確認できるようにする。	【評価】 ①日本語訳を理解することが出来てリスニング問題は得意になったが、発音練習の活発化にはつながらなかった。 ②一人一人の表現によって変わる単語部分とそうでない単語部分を明確化することで、自然とコミュニケーションに活用できていた。